



教科書における "資料掲載の意図" を踏まえた発問の工夫

教科書の紙面構成には様々な意図があります。今回は、教科書の紙面構成における資料掲載の意図及びその意図を踏まえた発問の工夫について紹介します。

〈中学歴史 「日本列島の誕生と縄文文化」〉

中学校の教科書(『新しい社会 歴史』東京書籍)の小項目「日本列島の誕生と縄文文化」の頁には、「縄文時代のむら」の絵資料に「縄文人の生活カレンダー」(四季のくらし暦)と「縄文土器」の写真資料が、下に示したように重なり合うかたちで掲載されています。



縄文文化について追究する際の中心資料は、「縄文時代のむら」の絵資料です。この中心資料に、「縄文人の生活カレンダー」と「縄文土器」の二つの資料が重なり合って掲載されているのには、「他の二つの資料と関連付けながら中心資料を読み取らせる」という意図があります。例えば、絵資料「縄文時代のむら」から読み取った人々の生活の様子と「縄文人の生活カレンダー」を関連付けて読み取らせることにより、縄文人は「季節に応じた生活をしていた」ことをとらえさせることができます。

中心資料と他の資料を関連付けながら読み取らせるにはどのようにしたらよいのでしょうか。
有田和正氏の発問の工夫を紹介します！



有田和正氏*は、中心資料「縄文時代のむら」（絵資料）を子どもたちに読み取らせる際に、次の発問を考えました。

「この絵の季節はいつですか？」

この発問により、子どもたちは、絵資料を丹念に読み取り、描かれている人々の服装や行動、自然等の様子から、季節がいつなのかを意欲的に考えるでしょう。

また、絵資料から、**貝採りをしたり、採集した貝を煮たり、貝殻を捨てたりする人々の様子**を読み取った子どもからは、**隣の「縄文人の生活カレンダー」に目を向けて、貝を採集する季節が「春から夏にかけて」であることを読み取る姿**が期待できます。

有田氏の発問は、絵資料に描かれた季節を問うことで、子どもたちに絵資料をしっかりと読み取らせるとともに、他の資料を関連付けて追究させることもできる見事な発問だと思います。

さて、もう一つの資料「縄文土器」の写真資料と絵資料との関連ですが、子どもたちが、絵資料から土器を見つけた際に、「縄文土器」の写真資料に注目させます。**写真資料は、対象を細部まで具体的に捉えることができる**という特徴があります。したがって、「**縄文土器**」の写真資料を見て、「**何のために、どのように使ったのか**」等について、**絵資料における人々の生活の様子と関連付けて考えさせること**により、縄文土器とそれを使用した当時の生活について理解を深めることができます。



教科書の紙面構成における資料掲載には、それぞれの資料を「関連付けて読み取らせる」という意図があります。その意図を踏まえて、発問等、資料活用の方法の工夫を考えることが、教材研究（分析）を深いものにします。そして、そのような教材研究に基づいた授業実践の積み重ねが、生徒の読解力（図・表・グラフ等の非連続型テキスト）の向上につながります。

*有田和正氏

福岡県の公立校、筑波大学附属小学校等で教鞭をとられた後、愛知教育大学教授、東北福祉大学特任教授等を歴任。